

資料6

教員採用選考試験における面接試験について

面接試験の対策と注意点

面接試験は、筆記試験では知ることのできない人物そのものについて、総合的に評価しようとするものです。面接官が質問を投げかけ、それに対して応答することで、教師としての資質・能力をどれくらい持ち合わせているかを判断します。

教師としての資質・能力について、文部科学省が中央教育審議会答申において、次のような条件を例示していますので、参考にしてください。

優れた教師の条件

1. 教職に対する強い情熱	教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など
2. 教育の専門家としての確かな力量	子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など
3. 総合的な人間力	豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと

※中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」より

面接試験で評価されること

面接試験では、様々な項目が評価対象となるが、以下その代表的なものをあげます。

①人に接する際の基本的態度やマナー

挨拶や言葉遣い、表情や動作など、人前できちんとした振る舞いができるか。

②志望の動機、意欲や熱意

教職を志した動機、教職への熱意を持っているか。

③これまでの経験から学んだこと

自分の経験から何かを学び、アピールできるものを持っているか。

④教育の話題に関する基本的な知識、理解

質問の内容には、必ず学校教育に関するものがあるので、それについての知識を持っているか。

⑤与えられた質問を理解する力とそれに対する応答能力、表現力

質問の内容をよく理解しているか。質問に対して、自分の考えを導き出し、それを適切なことばで表現する力を持っているか。

⑥物事に対する考え方

教育活動を行うにあたって望ましい考え方を行っているか。

面接試験とは

面接試験の対策として、まず心得ておかなければならないのは、試験対策を何日間か行えばうまくいくというものではない、ということです。面接官に面と向かえば、その場限りの態度はすぐにわかってしまいます。そもそも面接官は、あれこれ質問することで、その場限りの態度ではないかというこ

とを見抜こうとしているのです。したがって、常日頃からの様々な人々に対する振る舞い方を整えておく必要があります。

また、志望の動機や教育に関する質問への応答についても、直前に文章を丸暗記したのか、あるいはしっかりと自分のものになっているのかは、面接官が聞けばすぐにわかります。

自分の考えや意見を相手にわかりやすく、伝える力や相手の意図していることを的確にとらえて答える力をつけておきましょう。

それを踏まえた上で、必要とされる対策を具体的にいくつか示してみます。

- ①年上の人と話したり、公的な場で自分の意見を述べる機会を積極的に活用し、丁寧で適切な接し方や発言が自然にできるようにしましょう。
- ②志望の動機について、学校生活や教育実習の体験と結びつけて教職への思いを述べるができるようにしておきましょう。
- ③自分自身の大学生活が有意義であったとアピールできるように、積極的にクラブ活動やボランティア活動などに参加しましょう。
- ④学校教育に関する質問については、次の点に留意しましょう。
 - ア. 最近の教育政策や教育事情を知るために、文部科学省の重要な答申をよく読み、理解しておく。これは、文部科学省のホームページにも掲載されています。
 - イ. 最近の教育問題について、新聞を読んで教育関係の記事をスクラップしたり教育に関する特集番組をチェックしましょう。
 - ウ. 生徒の指導の仕方について、自分だったら具体的場面でどのように対処するかをイメージしましょう。このさい、法律で禁止されていること（たとえば体罰）や、答申や通達の中かで不適切だとされていることを知っておくことが大切です。
 - エ. 教育学の基本的な文献をよく読み、自分自身の意見を持つことができるようにしましょう。
 - オ. 複数人で教育の問題について自主的に討議をしてみましょう。
- ⑤情報誌等で、自分が受験する都道府県や市の出題傾向を把握しておくことが大切です。

最後に、面接における細かな注意点を挙げますので参考にしてください。

(1) 基本的な態度やマナーに気をつける

- ①服装・髪型は、第一印象を大きく左右します。第一印象は、その後の面接官の評価に大きく関係しているため、派手なものは避け、清潔感や誠実さが感じられるようにしましょう。
- ②はっきりと明るい口調で挨拶をしましょう。
- ③手は軽く握って膝の上に置き、足は投げ出したりしてはいけません。
- ④面接官に対して誠実に応答していることが分かるような視線のやり方を心がけましょう。緊張してどうしても目を見ることができない場合は、面接官のネクタイの結び目付近を見るようにして、極力視線を落とさないようにしましょう。
- ⑤舌を出す、頭をかく、肩をすくめる、貧乏ゆすりなどの癖を出さないように気をつけましょう。
- ⑥全体としてけだるそうな印象を与えないようにしましょう。

(2) 応答に気をつける

- ①面接官の質問をよく聞いて答えましょう。
- ②あまり長く沈黙しないことです。質問が理解できないときは、その旨をはっきりと伝えましょう。

- ③相手に伝わるように、思いやりを持って丁寧に最後まで話しましょう。
- ④面接官や他の受験者の質問や話を途中で遮らってはいけません。
- ⑤自分の発言に自信を持つことが大切です。

(3) 言葉遣いに気をつける

- ①自分のことは「わたし、わたくし」と言います。
- ②語尾まではっきりと話しましょう。
- ③身内には敬称を用いません。
- ④適切な敬語を使用しましょう。

個人面接の時間は15～20分程度です。

その中で、自分がどのような人間なのかを面接官に理解してもらえるよう、日頃から自分の考えをことばにして表現する練習をしておきましょう。

また、集団面接・集団討議などは練習がものをいいます。

「キャリア支援センター」が主催する練習会などに積極的に参加し、自分の考えを集団の中で表現したり、周囲とコミュニケーションを取りながら話し合える力をつけましょう。